

あすろ通信☆三

岡山アストロクラブ会報 第16号

2012年8月

■活動状況

イベント

▼定例観望会

・2012/5/26

場所：吉備中央町岩倉公園

参加者：会員17名、一般4名の合計21名。

夕方まで曇天でしたが、薄明後から晴天になり、月や惑星を中心に入梅前の貴重な星空を観望しました。



・2012/6/23

美作市大芦高原で予定していた定例観望会は、天候不順により中止しました。

・2012/7/28

場所：井原市美星天空公園

参加者：会員18名、一般6名の合計24名

夕方から曇りがちな天気でしたが、夜半過ぎから晴れて、60cm望遠鏡にて観望することが出来ました。



▼観望会以外のイベント

・2012/5/21

名称：日食観察会（支援）

場所：倉敷市立南中学校

会員2名参加

・2012/8/4

名称：美咲町立加美小学校観望会（支援）

場所：美咲町立加美小学校

会員10名参加

・2012/8/5

名称：後楽園幻想庭園星空観察会（支援）

場所：岡山後楽園

会員11名参加



▲幻想庭園星空観察会（上）と
加美小学校観望会（下）

統計情報

過去3ヶ月（2012/05～2012/07）の件数等の報告

▼ホームページ

・サイト全体のPage View 22,845 PV

※対前四半期比で約15%増

▼問い合わせ・入会等

・6件 ※HPフォームからのもの

▼メーリングリスト利用状況

・733件

※対前四半期比約9%増

▼会員数

前四半期中に準会員1名増があり、2012年7月末時点の会員数は、正会員28名、準会員28名の合計56名となりました。

■連載

天体ガイド

第5回 まだ間に合う夏の星空

連日の猛暑にはいささか参っておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。とはいえ、あれ程にぎやかだった蛙の声も小さくなり、かわりに虫の音が聞こえはじめ、真っ青な空の中を透き通った筋雲が流れていくのを見ると季節の変わり目を感じさせます。ガラガラとした夏の星々が次第にしっとりした秋の星空にかわっていくこの季節は、訳もなく感傷的でもの悲しい気分になるものです。モクモクと真っ白で力強い「入道雲」「かき氷」。

近々のクラブイベント

8月14日（火）～8月26日（日）
岡山アストロクラブ活動・写真展
岡山県生涯学習センター1F

9月15日（土） 定例観望会
吉備中央町岩倉公園
月齢 28.5 17:20 入

10月7日（日）～翌日合宿交流会
赤磐市リゾートハウス是里
※会員限定イベント
月齢 20.0 22:28 出

10月20日（土） 定例観望会
赤磐市是里農村公園
月齢 4.6 21:35 入

※開催場所など変更になる場合があります。詳細はホームページトップページにて開催日近くにご確認ください。

楽しかった夏の思い出を思い浮かべながら、今からでもまだ間に合う夏の星空を紹介させて頂きたいと思います。

1. お手軽天の川めぐり

暗い場所に移動し、夜空を一人で観賞するのは星が好きな人でも少し気が乗らないものです。お子様や女性、お子様連れならなおさらでしょう。自宅で天の川が見られれば良いのにと考えている方は多いと思います。市街地で天の川の淡い帯を見るのは難しいですが、見えていないだけで変わらずいつもの夜空にそれはあります。天の川に沿って星空を散策すると、日頃は感じることのない星の多さに驚くはずです。「うじゃうじゃある」夜空の星達と一緒に体感してみましょう。

道具は双眼鏡を使います。双眼鏡は大小、性能も様々ですがとにかく身近にある物を持ち出してみましょう。オペラグラスや教材の付録などでも十分です。観測のやり方を工夫すれば案外使えます。街中の肉眼では3等星、約200個程度しか星は見えません。小さいものでも双眼鏡を使うと、約10倍の2000個程度まで見えるようになります。小型の双眼鏡は手で持てるので自由気ままに好きな方向を覗くことが出来ます。双眼鏡がズーム式なら低倍率を使います。より多くの星達を見なければ暗いことが大切です。お月さまの光はとても明るいので、月が出ていない下弦前（月齢月齢19）～新月後（月齢3）、9月なら6日～19日（午後8時～10時）晴れた日の夜が見頃です。もう一つ、強烈に眩しい厄介者が街の明かりや外灯です。そこで地面にレジャーシートを敷くなど、寝そべてくつろいだ姿勢で眺めます。一気に開放感が広がり、背後からの明るい光もブロックできます。外灯の光が、眼に飛び込みまぶしかったら、広げたダンボール箱を、頭の廻りにコの字型に立てるなどして外灯の光を遮りましょう。

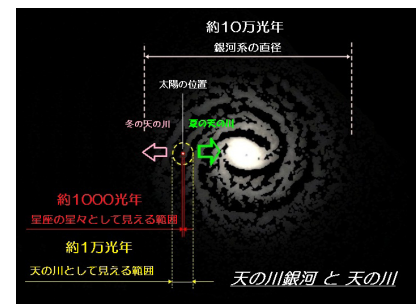
準備は良いですか？ それでは、身近にある双眼鏡を使って、お手軽天の川めぐりを始めましょう。

まずは眼のストレッチで暗がりに眼を慣らしましょう。暗順応と言いますが、実は暗がりに眼が慣れるには30分かかります。でもお子様と一緒にだったらそんなには待てませんよネ～。天に投げ上げられしっぽが伸びたおおぐま

座と北斗七星、罰としてずっと沈むことを許されないカシオペア座、おり姫星こと座のベガ、彦星のわし座アルタイル、さそり座と其中で一番明るく赤く輝くさそりの心臓アンタレスなど探したり、雑談や恋話、雲の観察などしながら眼を慣らして下さい。今騒いでいるのは誰ですか？ アンタレス！笑）このダジャレ意外に子供は覚えちゃいますヨ。

話はかわって、天の川銀河の中で私達の住む太陽系の位置と天の川の方角・広さについてお話します。私達の住む太陽系は、約1000億個の恒星（自ら輝く星）からなる天の川銀河のはずれにあります。

天の川銀河の直径は約10万光年と広大ですが、日頃私達が肉眼でみている星座の星々は、太陽から約1千光年、天の川でもわずか1万光年以内の部分が見えたもので、実はそれより遠くは宇宙の塵でさえざられ見えていません。また日本から天の川を見ると、夏は銀河の中心方向を見ているので濃い天の川が、冬は銀河の外周方向を見えているので薄い天の川が見えます。天の川の正体、それは遠くにあって暗く見え、一つ一つの星に分離できない星の大集団なのです。ところで図に太陽系が書いて無いことにお気づきでしょうか。太陽系の直径は約1.6光年でこの図に書き込むと直径約1μm。黄砂の微粒子1粒程度の大きさです。天の川銀河の広大さを感じて頂けたか。そして銀河の数は約1千億個、7兆3千億個という説もあります。恒星の数にすると30,000,000,000,000,

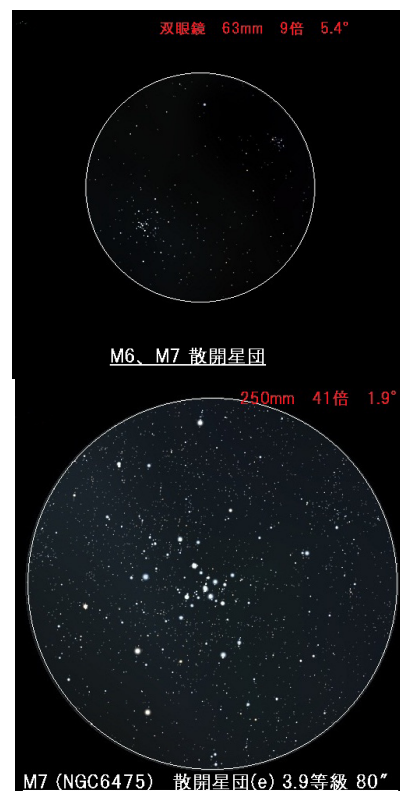
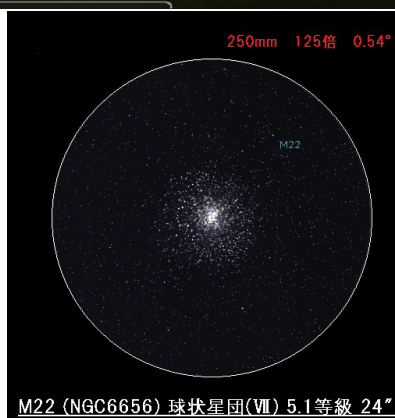
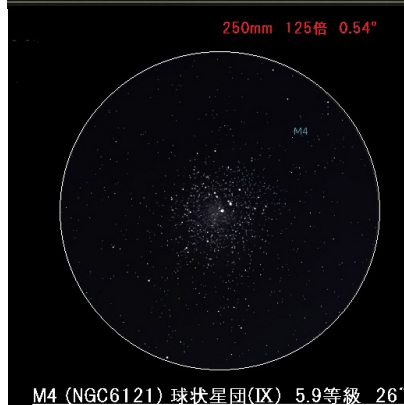


000,000,000個になります。まさに天文学的数字ですネ。

さて天の川めぐりに戻りましょう。8～9月の午後8時頃、南西方向のさそり座のしっぽの先から、天頂付近のこと座のベガ（おり姫星）とわし座のアルタイル（彦星）の間を通り、北東のカシオペア座に向けて天の川が流れています。この位置関係を覚えておくと、見えていなくても天の川がどの辺りを流れているか簡単に推測することができます。天の川には濃い部分と薄い部分があり、みどり色で囲った部分が、星が密集した天の川の見どころです。始めは実際に見た星空と、星図とのスケールギャップに戸惑いがあると思いますが、わし座の黄線の弓矢の形などを目印に探すと見つけ易いと思います。おすすめの夏のホットスポットは、はくちょう座の首、わし座～いて座（南斗六星）、いて座の下などです。名前なんて知らなくてかまいません。位置だっただけで大丈夫です、好きな場所を気ままに散策して「うじゃうじゃある」星の多さを体感して頂ければ幸いです。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★



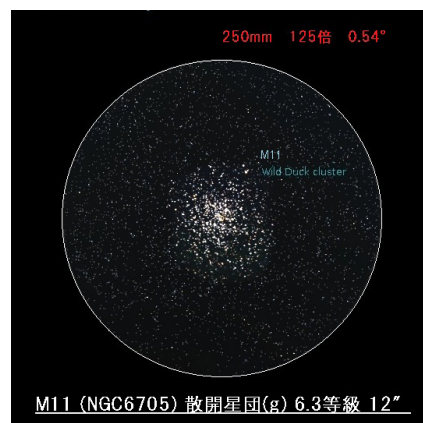


探すと探し易いと思います。M11 はあまり明るくない散開星団ですが、狭い範囲に散らばった星の数が多い散開星団です。天候に恵まれずいまだ叶わぬ夢ですが、澄んだ夜空に 400mm 以上の望遠鏡で 200 倍程度の高目の倍率で、つぶつぶ密集した星の大集団を覗いてみたいものです。

ご自分で星団導入にチャレンジし「ショボッ」と感じられた方、ぜひ定例観望会にお越し下さい。スイートスポットで捉えたつぶつぶの星団をご用意し、メンバー一同お待ちしております。最後までお付き合い頂きありがとうございます。

(執筆：レインボー)

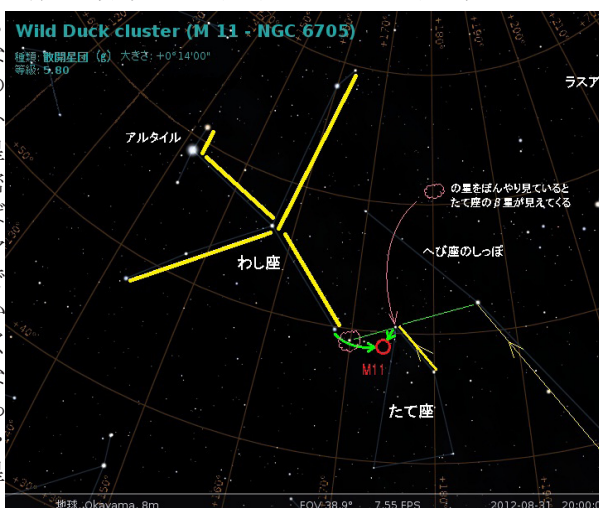
※ 星図・天体眼視イメージ画は GPL ライセンスのフリーソフトウェア Stellarium 0.6.10.1 を用いて作成させて頂きました。



2. 備忘録的 夏の星団紹介

ここからは初級者による、口径の大きな望遠鏡での天体導入メモ。備忘録的夏の星団紹介です。初めて体験した散開星団・球状星団の感動が忘れられず、釈迦に説法ながら夏の星団を紹介させて頂きたいと思います。散開星団は天の川銀河内の近くにある散らばった星の集団、球状星団は天の川銀河内の遠くにある星の大集団で、眼視で望遠鏡を覗いた時の独特のつぶつぶ感は病みつきになります。星団の星の密度分類にはアメリカの天文学者ハーロー・シャプレーが考案した分類

法が用いられています。散開星団は最もまばらなものを c、最も密なものを g としたアルファベットによる 5 段階で、球状星団についてはもっとも密なものを I、もっともまばらなものを ? としたローマ数字を用いた 12 段階で分類されています。夏から秋にかけて探しやすく見栄えのする明るく密な散開星団と明るくまばらな球状星団に M4・M7・M22 などがあります。星



団の見え方は、空の暗さ・雲量・高度・望遠鏡の口径・倍率で雰囲気は全く違って見えます。写真で撮影した星団は眼視とは随分ちがった感じに映っていることがあります。それでも、眼視で見る星団には写真とは違う独特の立体感・浮遊感がありたまりません。それぞれの星団の場所、眼視イメージ画像を参考に是非ご自分で探して見て下さい。

次は少しレベルアップして M11 です。目立たないいて座に位置し、先に紹介した星団よりも暗く視直径も小さいので一見探しにくく感じますが、わし座から

うんちくあれこれ

第15回「皆既日食にはまる」

私が星の世界に入ったのは2008年1月ですので、天文初心者であります。この頃、天文誌で観た素晴らしいコロナの写真に魅せられ、2009年7月に上海近郊での皆既日食ツアーに行きました。この時は大雨と雷で散々でした。それでも、最大食分時には周囲が真っ黒になり皆既日食の雰囲気を感じました。この時、天文誌を読み漁り皆既日食撮影用の装備一式を揃えました。毎日・毎日、宅配便が届くので、家内は閉口していたものです。

2010年にはイースター島の皆既日食ツアーを予約しましたが、キャンセル待ちとなり、旅行会社より待っても無理との回答があり、断念しました。タヒチでリゾート気分を味わい、イースター島で皆既日食を観るという魅力的なツアーでした。ニュージーランドのテカポへのツアーを予約した途端に、旅行会社よりイースター島の皆既日食ツアーがキャンセルが出たのでOKとの連絡があった。ご縁の無いイースター島でした。

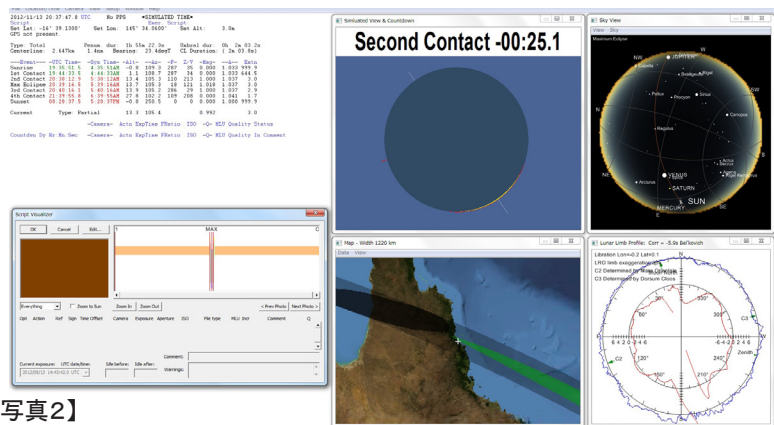
2012年5月21日には富山県の立山・室堂平で大規模部分日食を観て感激した。そして、2012年6月6日には倉敷市鷺羽山展望台で観た金星の太陽面通過に再度感激した。そんな具合で、更に太陽現象に関する好奇心が湧いてきた。皆既日食・オーロラ・・・。

こうして、11月のオーストラリア・ケアンズ行きが決まった。

どうせ行くなら、以前、天文誌で観た素晴らしいコロナの写真に近い写真を撮影したいと考え始め、皆既日食の記事を再度、読み直した。素晴らしいコロナ写真を撮影されていたのは、チェコの Miloslav Druckmüller さんを始めとする MMV project のメンバーでした。

Miloslav Druckmüller さん H P : <http://www.zam.fme.vutbr.cz/~druck/Eclipse/index.htm>

【写真1】が MMV project が2008年8月1日にモンゴルで撮影されたもので



【写真2】

す。「この写真を当会報に掲載させて欲しい。」と Miloslav Druckmüller さんをお願いしたところ、快く了解をいただいた。25枚のイメージから複雑な画像処理をされてコンポジットされているようです。但し、数百枚のダークフレームとフラットにて補正されているとのこと。なぜ、低ISO感度なのにダークとフラットが必要？ムクムクと疑問が・・・。

そうしている内に日本人でも MMV project に負けない写真を作るために、「ケアンズ皆既日食撮影プロジェクト」を作りましょう！と呼びかけたところ、現在、2名の方に参加していただいています。

Facebook の友人であり、金環日食日本委員会の副委員長をされている大西浩次先生が小笠原諸島北硫黄島沖で撮影された素晴らしいコロナの写真を拝見した。撮影は大西浩次先生で、画像処理は国立天文台の花岡庸一郎先生であることを知った。コメントに「多数のダーク・フラット画像で処理した後、約 200 枚の画像を合成した。」と記載されている。

また、素晴らしい日食写真を撮影されている塩田和生さんに連絡させていただいたところ、「アマチュアによるコロナの科学的な観測は、2009年に国立天文台の花岡先生の呼びかけで行われ、私を含む4名の人が撮影したデータを花岡先生に提供して、その解析結

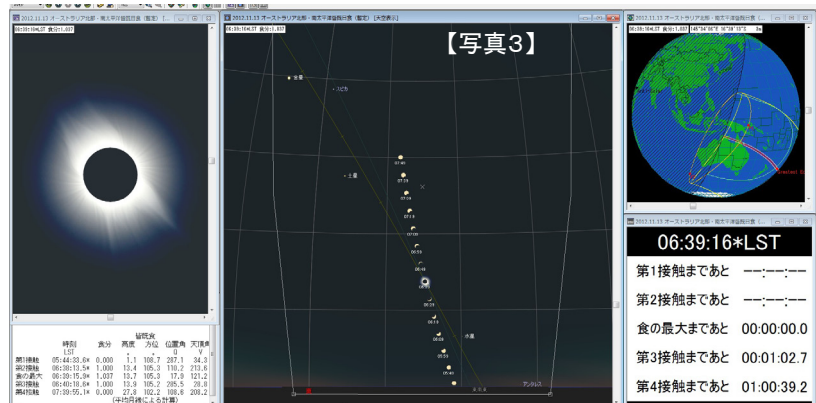
果の論文が海外の学会誌にも掲載されたという実績があります。花岡先生は、今年11月の皆既日食でもアマチュアに観測を呼びかけたいとおっしゃっていて、今月25日に行われる「日食勉強会」で講演していただく予定になっています。 <http://www.solar-eclipse.jp/> 」との情報をいただいた。

8月25日には横浜市で花岡先生・大西先生・塩田和生さんにお会いして、「数百枚のダーク・フラット画像が必要なのか？」という疑問を解消し、コロナの科学的な観測方法を伺おうと考えている。

現在は、「ケアンズ皆既日食撮影プロジェクト」メンバーと連絡を取りながら装備の準備を進めている。【写真2】は Moonglow Technologies 社の Eclipse Orchestrator Pro 3.3 の画面です。皆既日食中に効率的に撮影を行うために必要な素晴らしいソフトウェアです。後3ヶ月、このソフトウェアと悪戦苦闘することになります。【写真3】は、おなじみの AstroArts 社の EclipseNavigator 2.5 の画面です。このソフトウェアにもお世話になっています。

ケアンズでは低い高度での皆既日食であることと、この時期の気象条件が良くないため、2009年の上海皆既日食の二の舞になる可能性があるが、一歩踏み出そうとしています。

執筆：Hiro



会員紹介

「カワニシ」

アマチュアの手体を趣味にしている人々には、大きく分けて視眼派と撮影派と2つに分かれることができると思います。私は明らかに撮影派になると思っています。なぜ、自分がそうなったのか今回初めて会報に書かせてもらうことになりあらためて考えてみました。

今は、関西に住んでいますが生まれは瀬戸内市（当時は邑久町）で生まれ育ちました。天文に興味を持ったのはやはり望遠鏡で土星を見たことがきっかけです。ジャコビ流星群ブームがあり、小学校の時に将来の夢は天文学者になることと書いたのを覚えています。中学では、5cm屈折経緯台を買ってもらい、卓球部から写真部に入りました。そのころから星の写真を撮っていました。



そのころの愛読書が藤井先生の「星雲星団ガイドブック」でした。この本は、視眼でどう見えるか、どんなレンズでどう撮影すればいいか詳しく解説されていました。何回も読んで自分にとってのバイブル的な本となっていました。また「天体写真の写し方」を読んで、当時二眼レフカメラと経緯台という機材だったので、何とか赤道儀のガイド撮影のようにできないか経緯台を北天に傾けるなど試したりしました。そしてやっと手に入れたのが、中野先生の「全天恒星図」。1200円という当時の学生ではとても高価な本でした。星雲・星団がこんなにたくさんあると感激しました。（T井さんならすべて所蔵されていると思います）しかし高価な機材が必要な天体写真は、現実にはとても高みの花でした。

高校に入ってから、サッカー部に入ったので星からはさらに遠ざかっていきました。でも写真は好きで、やっと新聞配達で得たお金で一眼レフをやっと手に入れたのが Canon EF と 300mm 望遠レンズでした。鳥や風景などを撮ったりしていました。そして3年生で8mm映画をつくったりして、大学では映画研究部に入るなど映像とのつな



がりはずっと続いていました。また自転車で京都から北海道までツーリングするなどアウトドア的なことはずっと興味を持ってきていました。

関西に就職して結婚、子どもが4人の6人家族となり、自分の趣味にお金も時間もかけることが、ほとんど自由でできなくなっていました。1度 BORG のプラスチック鏡筒を買いましたが、簡易赤道儀では、やはり思う写真が撮れずお蔵入り。デジタルビデオカメラで子どもの成長を記録するぐらいでし

た。元来がアナログで育ったので、デジタルは苦手ですが、運動会撮影にと CANON Kiss X 購入が再デビューのきっかけとなりました。インターネットを通じて情報を得ながら自分だけで星の写真を撮っていました。

そんな時に岡山アストロクラブがあることを知りました。遠いけど会員にしたいと思い連絡を取ってから、はや3年。「まだ正会員じゃないの？」と会長に言われ、最近、正会員となりました。この会に入ってからいろいろ教えてもらい、機材もみなさんのおかげで少しずつ充実できました。35年前にあこがれていた赤道儀によるガイド撮影。そして、画像処理によって見えないものがあぶり出しのように現れる淡い星たち。デジタルの力を感じつつ、これから暇を見つけては、「関西ロボ」の名に恥じないように遠征して、撮影を続けていきたいと思っています。

執筆：カワニシ

文中写真は執筆提供

特別記事

5～6月に、希有な天文現象、金環日食と金星の太陽面通過が続けて起こりました。その体験記をユヅキさんと Sirius さんに寄稿いただきました。お読み下さい。

金環食体験記

2012年5月21日は本州横断型の金環日食でした。

岡山は残念ながら「部分日食」で、岡山で金環日食観望を待っていると83年後(2095年)です。

これは岡山を出るしかない！ということで、ほたるさんと共に、Morteさんとお友達さんの待つ淡路島へ渡りました。

淡路島のある広い駐車場に12日の0時集合。

そして続々とOACメンバーが集結し、mizutaniさん・T井さん・Omega Cさん・hawkさんと奥様・つるつるうどんさん・きっしーさんの総勢11名が集まり、金環日食パーティ開始となりました。

ほたるさんとはばらく車の中でのんびりし、外に出てみると早速皆さんは望遠鏡の準備をされており、その気合に私自身の気持ちも上昇してきました。

ほたるさん提案で線香花火を楽しみ、温かい飲み物やお菓子が雑談し、合間に星が見え期待をしながら過ごしました。

金環日食に備え3:30頃一旦就寝、5:00に起床して外に出ると、既に皆さん準備万端でした。勢揃いの望遠鏡を眺めているだけで楽しくなってきた。



す。

その望遠鏡たちに今回は減光フィルターが付いているので夜に見る望遠鏡と装いが違い、そこも楽しかったです。

肝心の空はというと、ちょっと怪しいような…？

そうこうしていると、6:16頃に。

日食観測プレートで太陽を観ていると「あれ？ちょっとかけているような？」

そう言ったもののほんのりだったので、不安でしたが、皆さんが「本当だ！かけてきてる！」と。ホッとしたのと同時に、

ついに金環日食が始まる！！という興奮が湧き起こりました。

それは皆さんも同じで、眼視に撮影にと盛り上がりました。

食の最大は7:28。そこまでの間、持ってきていたピンホール撮影用の用紙を地面に映してみるものの、なんだか薄い…。ちょっと雲も出ているし、太陽も金環日食に備えかけてきているので光が弱いのかな？と思いながら撮影は断

念。

hawkさんの双眼望遠鏡で何度も月が横切り欠けていく太陽と、黒点を楽しませていただきました。とってもクッキリ綺麗に観えて流石の双眼望遠鏡です！そして、少しずつ肌寒くなり周りも薄暗くなってきて、その体感も皆で共有。食の最大の時間が近づいてきたところに、雲が！



▲雲間の金環日食

太陽と逆の空は雲がなく綺麗な青空が広がっていて、いつもなら太陽を隠してくれてありがたい雲ですが、この時ばかりは、なんでちょうど太陽に向かって雲が湧いているの！？と、気持ちが焦りました。それでも食の最大の時にはうす雲になり雲がよいフィルターとなり眼視・双眼望遠鏡・日食フィルターといくつもの方法で楽しむことができたので、終わり良ければすべてよし！という思いになりました。

なんといっても、雲間からの金環日食はとても神秘的で綺麗な光景でした。



そして、皆さんの歓声と拍手！笑顔！！多くの方と共感しあえ、感動も嬉しさもまさに11倍でした。

食の最大が過ぎるのを名残惜しく思いながら何度も双眼望遠鏡を覗かせていただき、日食フィルター越しに写真を撮り、長いような短く濃い2分間を堪能できました。

太陽が元の姿に戻っていくのも楽しみましたが、食の最大前よりは落ち着いていました。

やはりピンホール撮影が諦めきれず、色々なところに影を作っていると…白い紙だとクッキリ映ることを今更ながらに再認識。

大きな白い紙を持って来ればよかった～とつぶやいていたら、T#さんが白い用紙を出してくださいました。やや風が吹く中の撮影となったため、OmegaCさんがピンホール撮影用の厚紙を持って下さり、白い用紙はほたるさんが押さえて…数人がかりで何とか撮影できました。

良さそうな木々は見当たらなかったもので、三日月型やリング型の木漏れ日撮影は断念。

そして、最後に全員で万歳三唱！最後までお祭り気分で過ごせました。



きっしーさん撮影の万歳三唱のビデオやOmegaCさんの金環日食の動画（音声入り）を拝見するたびに、臨場感が蘇ります。

金環日食を多くの皆さんと実体感でき、他の場所へ行かれた方たちとも随時のメール交換や写真で共有できたことは、一生モノの体験で、一生モノの思い出になり、感謝でいっぱいです。今でも私の携帯の待ち受けは金環日食で、いつでも感動と幸せに出会えます。

今度は23年後の皆既日食が今から楽しみです！？

執筆：ユヅキ 写真：T#



【金星太陽面通過観望レポート】

金環日食の興奮が冷めかけて間もない6月6日、金環日食にもましてレアな天文現象「金星の太陽面通過」が起きた。

この現象は、地球から見えている太陽の前面を金星が通過していくように見えるもので、さながら金星版の日食と言ってもよいだろう。とは言え金星の見かけの大きさは月のそれのおおよそ30分の1程度と小さいため、まるで太陽にできたホクロが時間をかけて移動していくような現象である。

今回を逃すと次回は130年先の天文現象ということで全国的に注目を浴びていたこの金星の太陽面通過だが、当日は日本の広い範囲で不安を抱える空模様の予報となっていた。

幸いにも岡山地方は晴れ予報で、他県からも大勢の天文マニア達が岡山や隣県の兵庫県に押し寄せていたようだ。

私たち岡山アストロクラブは、よく使う岡山市東区の観望地にてこの天文現象を迎え撃つこととしていた。

当日は朝6時前に現地入り、平日にも関わらず10人近いメンバーが集まった観望&撮影会となった。早朝のよどみの無いクリアな青空に気分を良くしながら望遠鏡やカメラをセッティング。金環日食とほぼ同じパターンだったので戸惑いなく準備をすることができた。



準備完了で迎えた午前7時過ぎ、金星が太陽面に突入する第一接触により、6時間におよぶ天体ショーが幕を開けた。

既になんか気温が上がっていたと思うが、撮影機材のパソコンが悲鳴をあげないように直射日光を避ける処置だけはしてやった。30秒に一回聞こえるシャッター音が順調に進む撮影を教えてくれていた。

長丁場は気の緩みを生むもので、私は途中でのピントチェックを完全に怠っ

金星通過中（午後9時半頃）



ていた。実は帰宅後チェックした撮影画像では、撮影当初は太陽黒点もしっかりきめ細かく写っているのだが、ほどなくピントが甘くなってしまっていた。おそらくは太陽の熱によって望遠鏡のレンズが徐々に膨張でもして狂ってしまったのだらうと思っている。

食が始まってから撮影機材はそのままだに、他のメンバーが出してくれていた観望機材で世紀の天体ショーを楽しませてもらっていた。

観望をしていると近所の方数人が近寄って来られたので、雑談しながら望遠鏡を覗かせてあげては一緒に太陽面通過を楽しんだ。

第二接触



朝から気になっていたが、観望場所のアスファルト地面のあちこちに大きな毛虫がはっていた。この場所は長年使っていたが、これだけの毛虫をここで見たのは初めてだった。一緒に観望した近所の方が「今年は毛虫が多いよ」とか言いながら、周りの木々に群がっていたケムシ野郎を案内してくれたのが印象に残っている。そのうちの一人は毛虫を手のひらに乗せ、まるで子供をあやすかのようにケムシの毛を撫でていた。私のナンバーワン苦手生物だけに今思い起こしても気持ち悪いことこの上ない。

食の話に戻ると、太陽面通過の最初のクライマックス第一接触、第二接触が完了した後は、長くゆっくりとした太陽面通過が進行するだけであつた。直射日光の下で体力だけが消耗していく

感じだ。

朝方望遠鏡でお見せした近所のお一人の方が再びやってきてドリンクや茶菓子の差し入れをしてくださった。なんと嬉しいことだろうか。さらには、途中からやって来たメンバー二人からもドリンクやアイスクリームなどの差し入れがあり、都度生き返る思いだった。素晴らしく気が利く人たちだ。

午後1時、太陽はとっくに子午線を超え、いよいよ太陽面から金星が抜け出していく第三接触、第四接触の時間が近づいて来た。この頃から空には大きな雲が出始め、接触のタイミングがうまく見られるかどうか運任せ的な状態となっていた。そんな中観望地のメンバーは最後のクライマックスに向けて動きが慌ただしくなっていた。

結局は雲間からなんとか金星の抜け出る様子を捉えることができ、金星の太陽面通過全行程をみんなで楽しむことができた。

太陽面通過終了後には、西明石天文同好会から来られていた方の大きな太陽望遠鏡で太陽プロミネンスを観望させてもらって太陽潰けの一日を無事終えた。

岡山アストロクラブ 活動展示・天体写真展 開 催 中

60 点に及ぶ天体写真展示と、太陽系模型・月の公転モデルをはじめとした一般展示を行っております。

8 月 26 日（日）午前中まで開催。



帰宅後も含めて私にはこの日がとても長い一日に思えた。

顔も日焼けで真っ黒だ。それにしても天体観望は・・夜に限る。

執筆・写真：Sirius

発行元：岡山アストロクラブ
発行日：平成24年8月16日
執筆：

「天体ガイド」 レインボー
「うんちくあれこれ」 Hiro
「会員紹介」 カワニシ

特別記事

「金環日食体験記」 ユヅキ

「金星太陽面通過観望レポート」 Sirius

編集：T#

次号発行予定：平成24年11月

執筆予定：

・天体ガイド でらっ
・うんちくあれこれ ミッキー
・会員紹介 Omega C

編集人より

今号より Sirius さんよりバトンタッチし、編集を受け持つことになったT#です。前任の Sirius さんのように、うまく編集できるか多少不安ですが、Sirius さん同様よろしくお願いします。

今回は、金環日食と金星の太陽面通過の特別記事を載せました。皆さんの原稿もお待ちしております。どしどしお寄せ下さい。



ホームページアドレス
<http://oac.d2.r-cms.jp/>